

まうので、まず、絶対に、間違わせな
い指導が必要であろう。

多様化した生徒には、特に、裁ち方
やしるしつけ方を、板書による一斉指
導でやっても、わからないのが実状で
ある。そこで、わかる授業の工夫とし
て、「私の寸法」等を記入する学習プ
リント(表2図2)を活用してみた。
このプリントがあれば、生徒は、安心
して実習できるばかりでなく、教師が
個別に指導する際の確認資料として、
大変役立つ。

① 表1、出来上り寸法表には、標準
寸法と並べて「私の寸法」の欄を設け
各自の寸法を、割り出し寸法表(省略)
を参考に記入させる。

この「私の寸法表」が、以下の裁ち
方、しるしつけ方の基本となるため、
常に持参させる。

② 表2、裁ち切り寸法の定め方も、
()に私の寸法を記入して、計算させ
る。見やすくするため、()内の寸法
は、色ペンで記入させる。

③ 図2、裁ち方図には、計算した裁
ち切り寸法を記入させる。

④ 折り積もり(省略)にも、図2の
寸法を記入させる。

教師は、ここまでのプリントの記入
を点検し、間違いない寸法であるこ
とを確認する。

⑤ 個別に柄合わせを見てやり、折り
積もりをさせる。

ここでも教師は、プリントの寸法ど
おりであるかを確認し、間違いない

ことを認めたものから裁ち切らせる。

この場合、プリントの記入のしかた
柄合わせ、折り積もり、裁ち方は、す
べて実物で示範し、全体に指導してか
ら二人一組となり協力して行わせる。

⑥ そののしるしつけについては、ま
ずプリント(省略)の空欄に、「私の
寸法」を記入させ、教師はそれを確認
する。生徒は、プリントを見ながら、
寸法どおりにしるしをつける。

その際、教師はここでもプリントの
記入のしかた、そでを中裏に別々に重
ねて置く方法、そでのしるしつけ方な
ど、実物で必ず示範指導する。

⑦ 以下、身ごろ、おくみ、えりのし
るしつけも、そでと同じ方法で指導す
る。特に、今までは、えり肩まわりの
曲線のしるしで、時間のかかる生徒が
多かったので、今回は厚紙で型紙をつ
くり、図3のように、合標をつけてお
く。この型紙は、曲線がきれいに出来
て能率よく、しかも、合標が、えりの
しるしつけ、及びえりつけの待針打ち
を容易にしてくれる。

このように、裁ち方、しるしつけ方
は学習プリントの活用により、間違い
はほとんどなく、予定時間内に終わ
ることができた。

(4) 縫い方は進度表(省略)を用い、
一段階終わるごとに、完了の○印をつ
け、次へ進ませる。左右のあるものは
●印とし、予定より三回おくれたら、
赤○印とする。教師は、生徒の進度状
況が、一目で把握でき、個別指導がし

やすい。生徒は、一つずつ○印がふえ
ていくことをたのしみとし、赤○印が
つかないよう、友達におくれないよう
にと、努力する姿が見られた。

(5) 毎時間ごとに必ず本時の目標を板
書し、個人差を考慮し、それぞれの到
達度目標を設けることを心がけた。ま
た、事前に行った調査や基礎縫いの資
料をもとに、表3に示すように、生徒
を三グループに分け、授業の流れの中
で個人差に応じた指導を行い、出来る
だけ進度差を生じないように配慮した。

また、進度のおくれ、入室(被服室)
のおくれ、忘れもの、学習態度などは
評価に加えることを、あらかじめ生徒
と約束をしておき、授業に熱心に取り
組む態勢づくりをしておく。

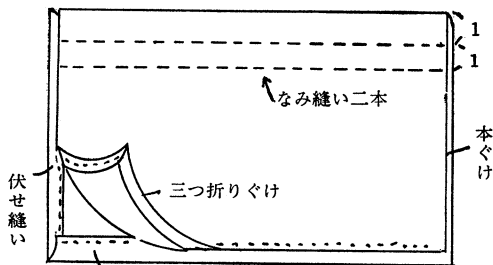
(6) 完成後は、全員でできものを着るこ
とを、たのしみにして努力させ、全員
が完了するのを待って、着装指導をす
る。縫い方の上手、下手は別として自
分で縫い上げたきものを着れた生徒の
よろこびは、たとえようがない。

おわりに

はじめにかかげた実践目標は、ほぼ
達成できたように思われる。

果たして全員が着装までこぎつけら
れるかという不安もあったが、プリン
トの活用で、裁ち方、しるしつけ方は
思ったより効果的であった。プリント
が、生徒と教師の心を結ぶかけ橋にな
ったようにも思える。一番むずかしい
はずのえりつけも、型紙と、合標によ

図1. 基礎縫い



耳ぐけ
予定時間、1時間、残りは、放課
後、指導して提出させる。

さらし、30cmで、実習させる。

表1 出来上り寸法表

測定寸法

身長	腰囲	ゆき丈	
名称	標準寸法	私の寸法	
着たけ	130内外		
身たけ	154内外		
そでたけ	40内外		
そで口	19		
そで幅	20~23		